

平成29年度

いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第10日 12月2日(土)

＜パネルディスカッション＞ 子どもたちの輝く笑顔を求めて



＜パネリスト＞

結城市立江川北小学校	教諭	江幡 聡美
水戸市立見川中学校	教諭	根本 美穂
県立古河中等教育学校	教諭	間宮 宗孝
県立友部特別支援学校	教諭	松嶋 仁
行方市立北浦中学校	栄養教諭	中村 絵理香
稲敷市立浮島小学校	養護教諭	前島 有梨加
受講生代表	藤田 剛	
受講生代表	飯島 有希	

【内容】

- ・最初に6人のパネリストが教員としてのやりがいを説明した。
- ・受講生代表から、教員として常に心掛けていることなどについて質問があり、パネリストが、一人一人の子どもへの丁寧な対応や常に自分の行動に責任をもつことなどの回答をした。
- ・他の受講生から、教材研究の時間などについて質問があり、パネリストが放課後や空き時間で教材研究していることなどの回答をした。
- ・最後にパネリストから受講生に対し、「子どもが好きという気持ちを大切にしておいて教師をめざしてほしい。」などの応援メッセージがあった。

特別講演会 「夢を叶えるために」



リオデジャネイロパラリンピック銅メダリスト
日本体育大学大学院・陸上選手
辻 沙絵 氏

【要旨】

- ・子どもの頃、自分に障害がある事実と直面した。そんな絶望の中で、できないことをできるようにするため、一所懸命に取り組むたいと考えた。
- ・中学、高校、大学で自分を認めてくれる恩師と出会い、その時にできる最大限の努力をすることができた。そして、その努力を支えてくれた周囲の人たちへの感謝の気持ちをもつことができた。
- ・パラリンピック陸上競技に限界まで挑戦している世界の選手たちとの出会いの中で、彼らの生き生きとした姿に刺激を受け、今しかできないこと、私にしかできないことに挑戦することを決めた。
- ・障害のあるなしに関係なく、一人一人に個性がある。それぞれが夢を追いかけて、前向きに生きてほしい。

閉講式

主催者挨拶



茨城県教育庁学校教育部長
森田 充

【要旨】

- ・教師になってよかったことは、子どもたち、保護者、同僚と出会い、その中で学び、ともに成長できたことである。
- ・教師に必要な力として、子どもの心を感じることである。起きている事実だけを見て判断してもよい指導はできない。子どもの心をとらえ、大切な一言を投げかけられるような教師を目指してほしい。
- ・人の成長に必要なのは自己を分析することである。自分は何ができて何ができないかを知り、誠実に生きることが大切である。

受講生代表挨拶



受講生代表 小竹 史之

【要旨】

- ・教師塾に参加し、一人一人の子どもたちを輝かせるためには、学級づくりが大切であることを知った。小学校での実習において、教師塾で学んだことを生かすことができた。
- ・教師塾で学んだことで、理想の教師にまた一步近づくことができた。また、共に学んだ塾生との出会いは、自分にとっての宝物である。グループ協議において、他の塾生の熱い教育観に触れ、自分も刺激を受け、考えを深めることができた。今後、1日でも早く教壇に立てるように精進していきたい。

塾生のアンケートより

- ・障害も自分の個性と捉え、常に前向きに、今できる最大限の努力をしている辻選手の頑張る姿にとっても感動した。【学生】
- ・辻選手が母親や監督の言葉によって支えられてきたように、言葉かけによって児童生徒を支えられる教師を目指したいと思った。【若手教員】
- ・夢は個人の努力と周りの人の支えによって叶えられるという話を聞き、感謝の気持ちを忘れずに、教師になる夢に向かっていきたいと思った。【学生】
- ・パネルディスカッションでは、若手教員の方から教師のやりがいや苦労など、具体的な話を聞くことができ、教師の仕事の実際を知ることができた。【学生】
- ・様々な立場の若手教員の方から、児童生徒のために普段から心掛けていることを聞くことができ、とても参考になった。【若手教員】